

「岡前小学校の前野田植歌伝承活動の取組」

1 学校名

天城町立岡前小学校

2 学年・人数

小学校1年生～小学校6年生（計14名）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

平成31年4月18日（木）

(2) 発表の日時・場所

平成31年4月20日（土）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称 前野田植歌（まえのたうえうた）

(2) 由来

徳之島の開闢神話でアメンキュ（神様）が稲を植えたとされる前野原（現前野集落）には，田植歌が古くから継承され，歌い続けられている。

前野田植歌は，昭和20年代頃までは，祝田（ユウエダ）と呼ばれる豊作を祈願する祭祀を行う田んぼや，新たに作られた田んぼ（ミーダ）での初めての田植えの際などに歌われていた。しかし，米の生産調整に伴う転作事業などにより，徳之島から田んぼがほとんど姿を消し，田植歌が歌われる機会が失われてしまった。

このようななか，前野集落から田植歌が消えてしまうことを危惧した前野集落民は昭和50年頃に前野民謡保存会を結成して，田植歌の伝承活動を行うとともに，田植歌に田植え作業を模した振付けを加え舞台芸能へと昇華させ，その永続的な保存活動を行っている。

(3) 構成等

前野田植歌は，稲を植える早乙女と，畔に立ってチヂン（太鼓）で調子を取る男性との掛け合いによって歌われる。舞台芸能でも，男性がチヂンを叩いて調子を取り，男女掛け合いで歌われるとともに，豊作祈願風景や，代掻き，田植え作業の情景が振り付けなどによって表現される。

5 保存会や地域との連携の具体

例年4月に開催される前野田植歌実演会（前野民謡保存会主催）では、岡前小学校に通う前野集落在住の児童・生徒を中心に、本行事に積極的に参加している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

現在、徳之島には田んぼがサトウキビ畑に転化してしまい、稲作に触れ合う機会がほとんどない。そのため、児童・生徒には前野田植歌実演会への参加だけでなく、田植え後の、米の収穫や脱穀、精米などの稲作に関わる一連の労働作業の体験や、稲の収穫を祝す年中行事であるハマオリにも積極的に参加している。

また、田植歌実演会終了後には、昨年の実演会にて植えられた稲から収穫されたお米を使用した、おにぎりやカレーなどを食し、参加者全員の交流を行っている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【前野田植歌実演会の様子】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

〔児童生徒〕

- 毎年、田植歌実演会に参加して、地域の人たちが、歌をうたってにぎやかななか、友達と一緒に田植えできることが楽しい。

〔保護者〕

- 私たちの世代も、田んぼにほとんど触れる機会がなかった。子どもたちと一緒に、今後も前野田植歌実演会に参加したい。

〔保存会〕

- 前野田植歌実演会は、今年で9回目となった。平成22年に国の補助事業を活用して、田んぼで歌われなくなった前野田植歌を復興する目的で、この行事を初めて実施し、事業終了後も毎年継続して実施している。毎年、前野田植歌実演会に岡前小学校の子どもたちが参加してくれて、行事を盛り上げてくれていて感謝している。